



写真で見る第18回学会大会

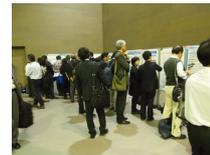
日本災害情報学会は、第18回学会大会（実行委員長：中森広道日本大学文理学部教授）を平成28年10月22日～23日の日程で、日本大学文理学部（東京都世田谷区）で開催した。大会では104件（口頭81件、ポスター23件）の研究発表が行われ、337名が参加して活発な議論が展開された。

10月22日（土）

受付開始	9時30分～	
口頭発表	10時00分～16時00分	3号館4階 A会場、B会場、C会場
ポスターセッション	16時10分～17時40分	百周年記念館2階ランニングバルコニー
懇親会	18時00分～20時00分	百周年記念館1階アリーナ

10月23日（日）

受付開始	9時30分～	
口頭発表	10時00分～14時40分	3号館4階 A会場、B会場、C会場
総会／廣井賞・阿部賞・河田賞授与式	15時00分～17時00分	百周年記念館2階小ホール



全国各地から**337名**が日大に！

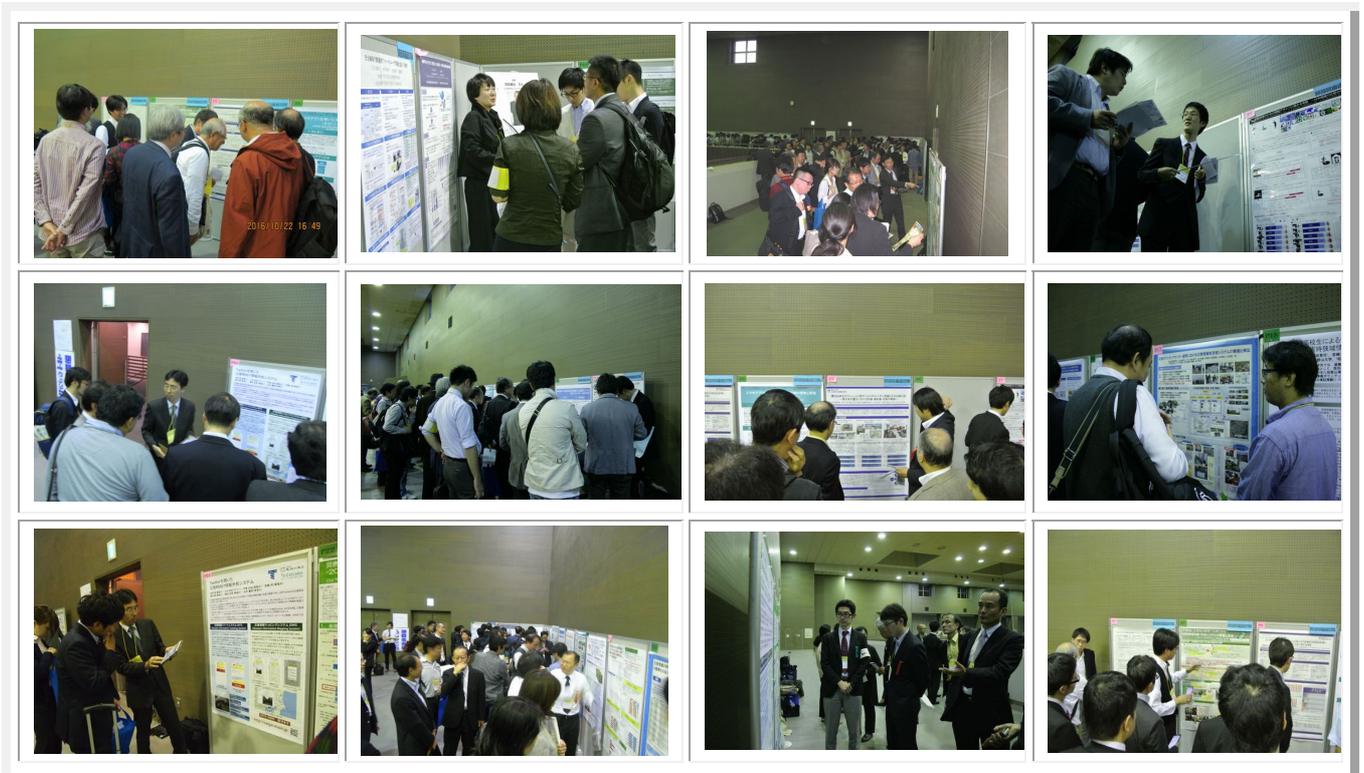
写真で見る学会大会**2016**



口頭発表



ポスターセッション



廣井賞授賞式・記念講演

日本災害情報学会は2006年、初代会長の故廣井脩氏（元東京大学大学院教授）の志を後世に伝えるため廣井賞を創設し、10回目の授与式を10月23日、学会大会席上で行った。

今年荣誉に輝いたのは下記の社会的功績分野1社・1名。



分野	受賞者	対象功績
社会的功績	河北新報社	《巡回ワークショップ「むすび塾」》 東日本大震災の体験を将来の防災に生かそうと、メディアが「狭く深く」地域に入り、地域住民とともに実践的な備えを探る巡回ワークショップ「むすび塾」の取り組みは、地域の防災力の底上げに貢献しているだけでなく、全国各地や海外にまで広がりをみせている。
	倉野康彦氏	《避難所運営ゲーム「HUG」の開発・普及》 大地震時の避難所運営を体験的に学ぶことができる「避難所運営ゲームHUG(ハグ)」は、全国の自主防災会や自治会、防災関係者のみならず、中学・高校での授業でも実践されており、被災地の避難所運営の理解促進に果たした社会的貢献は極めて大きいものがある。また、HUGの指導に全国を回り、ローカルバージョンの作成を支援するなど、HUGの普及にも尽力している。



◎ 啓発報道の問い直しが出発点

- ・震災前の警戒紙面に自負
- ↓
- ・発行地域で万単位の犠牲
- ・震災前の啓発記事を検証
- ・72%「役に立たなかった」
- ・住民の命守る意識が不足
- ・特集紙面で総括
- ↓
- ★ 広く浅く呼び掛けでは限界
- ★ 深く狭く働きかけること必要
- ★ 一緒に語り合う場の提供へ

防災報道の改善必要

KAHOKU SHIMPO PUBLISHING CO.

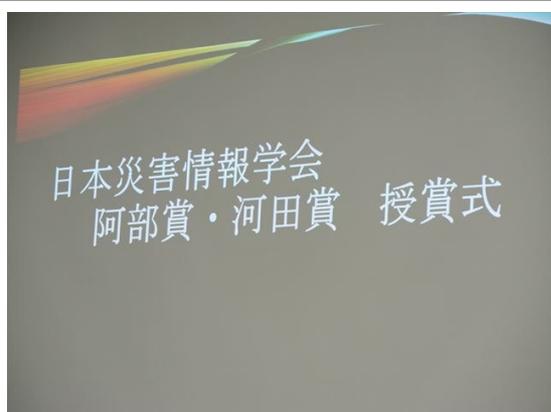


阿部賞・河田賞授賞式

日本災害情報学会は 2014 年、若手会員の奨励を目的に、学会大会での優秀発表に対して、ポスター発表部門には阿部賞、口頭発表部門には河田賞を創設した（両賞は、元会長の故阿部勝征氏（東京大学名誉教授）及び河田恵昭氏（京都大学名誉教授）の名を冠したもの）。

今年の実賞者は下記の 8 名。

分野	受賞者	表彰発表タイトル
阿部賞 (優秀若手ポスター賞)	西澤 篤 東洋大学大学院理工学研究科 都市環境デザイン専攻	避難誘導のための標識デザインに関する考察 ～日米調査の比較分析～
	田中 健一郎 兵庫県立大学大学院 応用情報科学研究科	ハザードマップの情報品質を高める防災アプリの 開発
	倉田 和己 名古屋大学 減災連携研究センター	平常時と災害時の両面で活用できる地域情報収 集・共有システムの開発と実践
河田賞 (優秀若手発表賞)	齋藤 文 慶應義塾大学 政策・メディア研究科	避難所運営を疑似体験する演習型教材「4 コマ 漫画教材」
	城下 英行 関西大学社会安全学部	日常生活の中に埋め込まれた防災の発見
	小島 彰吾 (株)アイ・ディー・エー 社会技術研究所	被災時の行政と住民との関係構造にみるコミュ ニケーション・デザインに関する考察
	佐藤 良太 防災科学技術研究所	行政機関間における避難所情報の伝達と集約 —平成 28 年熊本地震を事例として—
	定池祐季 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター	有珠山周辺地域における防災教育の変遷



懇親会



PHOTO : AMANO, ENDO, IKEDA, KAIDA , KANOU, KITAMURA, KUBOTA, KURODA, KUROKAWA, MURAKAMI.